

# 風土記の丘の花だより<sup>288</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2025年9月13日)

朝は多少涼しくなったかなと感じますが、日が高くなるとやっぱり酷暑です。この暑さ、もういい加減にしてほしいものです。



他の木やフェンスなどからみついて、センニンソウの白い花が咲いています。学名は *Clematis* ,どこかで耳にした響きですね。園芸好きな方ならお分かりだと思いますが、クレマチス、テッセンなどと同じ仲間のつる植物です。もちろんクレマチスのように大きな花びらはありませんが、真っ白でとてもきれいな花ですね。センニンとは仙人のことで、花の後にできる細長いモジャモジャしたものを仙人のヒゲに例えて名付けたということです。忘れていなかったら、秋の終わり頃にそのヒゲを見てください。



前の287号でアレチヌスビトハギ(以後アレチ)を紹介しましたが、これはアレチが付かないただのヌスビトハギです。花は大きさも色あいも、アレチに負けていますね。控えめです。実ができて、ひつつき虫には違いありませんが、アレチ程もひつついてきません。ヌスビトは言うまでもなく「盗人」のことで、実の形が、泥棒が抜き足、差し足、忍び足で歩くときの足跡に似ていることによるそうです。でもこればかりは確かめようがありませんね。



秋の草花ヒヨドリバナが咲き始めています。野鳥のヒヨドリが山から里に下りてくる頃に咲き始めるので、この名が付いたということですが、今年ははまだ風土記でヒヨドリを見かけません。キク科の植物で、ごく普通にどこでも見かけます。見た目だけでは分かりにくいですが、細かく調べると、いろいろな種類があるようです。でも、それはエライ学者先生にお任せすることにして、私たちは、こんな花はみんなヒヨドリバナでいいことにしましょう。



秋の七草の一つハギの花が咲いています。これはマルバハギです。葉がまるいですね。花もぎゅっと縮こまった感じですが、ハギの中では早く咲き始める種類です。ハギは昔から人々に愛され、万葉集にはハギを詠んだ歌が何と145首も残っています。「恋しくは 形見にせよと 吾背子が植ゑし秋萩 花咲きにけり」切ないですが、なかなかロマンティックな歌ですね。これから涼しくなるにつれて、他のハギはもちろん、秋の七草も順番に咲き始めます。山歩きがますます楽しくなりますね。来週はもう秋の彼岸、少しは暑さが和らぐでしょうか。

松下